



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会

北京パラリンピック大会に

参加して

全日本シッティングバレーボール競技 男子監督 富田 圭造

今回、シッティングバレーボール競技は、男子は、シドニー大会から3大会連続での出場、また女子は初めて出場でアベック出場という記念すべき大会となりました。男子はアテネ大会の翌年から今大会に向け強化をしてきました。限られた時間と費用の中で、「絆」をテーマに心の通うバレーボールに取り組み、「ボールをつなぐ我慢のバレーボール」を日本のバレーとして北京に乗り込みました。しかし、成績は全敗と残念な結果に終わりました。応援くださった日本の皆さま、またご支援いただいた方々には、大変申し訳なく思っております。全ては私、監督の責任であります。選手はよく頑張り、持っている力を存分に発揮していました。世界の強豪相手に、粘りのバレーボールが通用する場

面も多くみられました。最終的には、相手の強力な攻撃に力尽きたのが現状であります。これから、4年後のロンドン大会に向け、粘りのバレーボールを更に強化し、相手の高いブロックを利用した攻撃ができるように強化していかねばならないと感じております。ただ、アジア地域には今大会優勝のイラン、また、4位となった中国、他にも強豪国が多く、アジアの代表としてパラリンピックの出場権を取ることが大変難しいものとなっております。世界のベスト8という自信を持って、また新しい選手を発掘・育成に取り組み、まずは2年後のアジア大会（ロンドン大会予選）で切符をとりたいと考えています。その後、さらにしっかりチームを作り上げ、北京のリベンジを果たしたいと思えます。

シッティングバレーボールは、冒頭に記述したとおり、ようやく男女揃ってパラリンピック大会に出場でき、協会が発足してまだ10年と日の浅い競技団体であります。ここからがまた新たなスタートラインとして、日本国内の障害のある方とない方が一緒に楽しめるスポーツ種目として、多くの方に知っていただき、参加していただいて、障害のある人々のスポーツが、普通のスポーツとして、発展していくように頑張つていきたいと思っております。これから、応援よろしくお願ひいたします。



水に輝こう！

障害者水泳 フェスティバル

森田 美千代

9月21日(日)京都アクアリナにおいて開催されました。当日は、強い雨が降ったりやんだりという天気でしたが、大変多くの方々が観覧してくださいました。最終的に

は、1530人の方が入場してくださいました。プログラムは記録に挑戦しよう！ということに泳、レースによつては歩いてもOKというのもあり楽しんでもらいました。電光掲示板に自分の名前がでてみんなにっこり！

三木二郎選手(オリンピック出場)や、北村友里選手(江島大佑選手(パラリンピック水泳代表)もきて、選手と一緒に何度も泳いでくれました。

プログラムは、京都で活動する障害者シンクロナム発表。

プログラムは、踏水会シンクロナムと井村シンクロナムによるエキジビション。

プログラムは、山城高校ウォーターボーイズのショー。

そして最後は、参加者・スタッフ・当日申しこみ者全員による「みんなでシンクロナム！」

用意してあった300のスイミングキャップが足りなくなるほどたくさん人がプールに入り、しゅうちん」の曲にのって、おおいに楽しみました。

障害のある人もない人もみんな一緒になってプールで楽しみましょう！というテーマのもと、大勢の方が楽しむことのできた1日でした。

行事予定	10月	11~13日	第8回全国障害者スポーツ大会	大分県	来月の つどいは 11 / 9 第2日曜日
		14(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		19(日)	205回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		25(土)	車いすハンドボール審判講習会①	京都市障害者スポーツセンター	
		26(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	11月	1(土)	車いすハンドボール審判講習会② 卓球専門部ワンポイント講習	京都市障害者スポーツセンター 京都市障害者スポーツセンター	
		7(金)	第13回精神障害者スポーツ大会	京都市体育館	
		8(土)	車いすハンドボール審判講習会③	京都市障害者スポーツセンター	
		9(日)	第31回府民総体交流種目卓球バレー大会	京都府立体育館	

スボ振ルネサンス(7)

「心でつなぐ活動を！」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

私が、京都障害者スポーツ振興会(以下、振興会という)の機関誌「つどい」を担当している広報専門部の森津君から、「4月号から、久しぶりの連載をよろしく」と、この連載の依頼を受けて書き始め、早くも半年が過ぎて本号で7回目になります。

森津君は、私が前の職場で倒れ、休職を余儀なくされた後、振興会の事務局を引き継いでくれたうちのひとりで、最も信頼の厚い、古くからの同志であり、川面会長などとともに振興会の将来や活動について夢を率直に心から語り合える数少ない親友なのですが、ここ数年は、振興会の活動の現状やあり方に疑問を感じ、憂える中で一歩引きながらも、自らの持分である「障害者水泳のつどい」と「機関誌づくり」は責任を持って守り続けてくれていました。

その彼と同じ想いが私にもあり、この連載を引き受けたのですが、なにを書こうかと考え、会長の交代というタイミングに合わせ、振興会活動にかかわる現状の課題や在り方を訴え、忘れ去られてきた本来の姿を理解してもらおうと、より良い活動を願う振興会活動に関わる人向けの内容を、振興会以外の人にも目につく「つどい」に、あえて書き出しました。

半年が過ぎ、振り返ってみると、振興会発足当初から参画してきたひとりとしての想いが強すぎるのか、書いて来たことは現状に対する苦言ばかりでした。

私が皆から煙たがられるのは、振興会がより良い方向にすすみさえすれば、どうということはないことなのですが、さすがの森津君からも、「そろそろ、建設的な内容にしては」とのご進言をいただいたので、苦言は一時控えたいと思います。

振興会は、一昨年、体制の強化を図るために組織の改正を行いました。その功罪が時を置いて幾つか見られる中、5月発行「つどい316号」のスポ振ルネサンス(2)で書いていたように、振興会が、専門部としての組織が強化さ

れるとともに分業化が進み、自分の受け持つ専門部の守備範囲のみの事業をこなしているだけでよく、他人の受け持つ専門部のエリアまで気にしなくても振興会の事業はほとんど消化されていくような仕組みになってしまい、振興会全体を見なくても済むようになってい

そういつた中、事業状況を見てみると、事業を進めるに必要なスタッフなど人的資源の確保に苦慮をしている専門部とそうでない専門部との格差が見受けられます。とりわけ、振興会の発足当初からの根幹事業のひとつである「障害者スポーツのつどい」に必要なスタッフ数は不足しているのが現状です。

そこでひとつの提案をしたのです。他の団体に協力を求めたり、新しくスタッフを募るのも手だと思いますが、振興会の内部努力(協力)で人員不足をカバーしていけるようにすべきと考えます。



識を持つて、振興会の事業は、みんな支え合って行つて来ました。事業が増えた現在、みんながみんな全ての事業に関わることは不可能ですが、他の専門部から部員を毎月「障害者スポーツのつどい」などに、ひとりずつ交代で送るような体制を構築できれば、10名余りのスタッフの確保が可能になり、参加者の安全性が高められるし、他の専門部から派遣された部員にとっても、振興会の根幹事業としての「障害者スポーツのつどい」の本質と必要性が理解できるようになり、以後の活動の糧となるものと考えます。

北京パラリンピック結果

江島大佑

100メートル背泳ぎ

1分16秒42 5位入賞

50メートルバタフライ

33秒69 4位入賞

北村友里

100メートル平泳ぎ

2分3秒41 7位入賞

寒川進

400メートル走

54秒67 予選敗退

800メートル走

1分46秒65 予選敗退

中山要

シッティングバレーボール

8位

金田進

第24回全京都車いす駅伝

9月7日(日)

丹波自然運動公園

郡市町村の部

一位 あやべランニングスターズ

二位 与謝野 44分24秒(大会新)

三位 福知山 51分55秒

52分8秒

三二駅伝

一般の部

一位 八木支部

二位 やまぶき

三位 宮津

施設・学校の部

一位 あじさい園

二位 天ヶ瀬寮

三位 アニョースファイターズ